



2015年9月12日、NHK大阪主催障害者のためのバリアフリーファッションショーに出場

特集

国際関係学部・観光ビジネスコースの挑戦 車椅子の新郎のための婚礼企画「タキシーマ・ウエディング」

本号の特集は、国際関係学部の観光ビジネスコースによる車椅子の新郎のための婚礼企画です。これはコースの学生たちが香蘭ファッションデザイン専門学校（福岡市）と共同で開発した「タキシーマ（タキシード＋ハカマ（袴）の意）」という婚礼衣装です。NHK・Eテレ「バリバラ」で昨年2回にわたって放送されましたが、現在、障害者の婚礼市場にイノベーションを起こすべく、ベンチャー立ち上げに向けて取り組んでいます。障害者との共生を目指しての学生たちの挑戦にご支援をよろしくお願いたします。

目次

- 1～8 特集 国際関係学部・観光ビジネスコースの挑戦
 - 2～4 第6回観光シンポジウム「共生社会を、つなぐ」
基調講演「障害者理解を深めるために」
 - 5 観光ビジネスコースの挑戦
障害者の婚礼市場にイノベーションを起こす車椅子の新郎のための婚礼企画「タキシーマ・ウエディング」
 - 6～7 徹底解剖!! 開発から学生ベンチャーまで
- 8 観光ビジネスコース 1年の軌跡
- 9 日韓交流の未来を探る KIU ホールで「学生シンポジウム」開催
- 10 第3回 KIU 杯高校生英語スピーチコンテスト
第4回 KIU ハングル・スピーチコンテスト
- 11 ゼミ対抗プレゼンテーション大会
- 12 平成27年度国際関係学部卒業論文優秀者
国際交流ウォーキング大会
平成27年度卒業論文プレゼンテーション
あとがき

観光ビジネスコース第6回観光シンポジウム「共生社会を、つなぐ」

基調講演「障害者理解を深めるために」

NHK 大阪放送局制作部チーフプロデューサー 日比野 和雅氏
2015年10月28日(水) 14:40～18:00 KIU ホール

はじめに

まず、イメージトレーニングです。「障害者」と聞いてイメージする言葉を3つ思い浮かべてみて下さい。(学生に聞く日比野氏)「バリアフリー」「介護」「不自由」「大変そう」このあたりでしょうか。実は、決して出てこないキーワードがあるのですが…。「バリバラ」では、漫才のM-1グランプリと障害者の「障」と見せるの「ショー」をひっかけて「SHOW-1グランプリ」と称して、「日本で一番面白い障害者パフォーマーは誰か」というのを何回かやっています。そのコントを1つ見て頂いて、皆さんが今抱えている(障害者の)イメージが合っているのか、かけ離れているのか考えてみてください。

※「脳性マヒブラザーズ」のコント動画を見る。

いま、ご覧いただいたのは、SHOW-1グランプリ第1回目の優勝者で「脳性マヒブラザーズ」という新潟出身のお笑い芸人さんです。本人たちはプロですから色々な所で呼ばれていますが、障害者でもこういう面白いものもあるんです。が、彼らが地方に呼ばれてコントを見せるとアンケートに「面白かった」と書いてくれないというんですね。「面白くてやっているのに感動しました」と書かれる。「いやいや、感動される対象ではないんで、俺たちは」と言いながらも、やはりどうしても「感動した」となってしまう。確かに、ネタが面白くないときもあるのですが、それよりも「感動した」と書かれることがショックで、何とかならないかということで番組を作りました。

そのときのタイトルが、「感動するな、笑ってくれ」だったんですね。障害者の番組はこれまで通りの、従来のイメージのままではいいのだろかということから始まり、大きく一歩踏み出そうということになり「バリバラ」を立ち上げました。

「常識を疑う。バラエティーの中にあるリアル」

障害者は本当に可哀そうなのか、本当に地味なのか。まず、一つ目が「常識を疑う」。そもそも本当に大変なことは一体何なのか。障害者はどういう立場にいるのかということを考えました。それで、それまでは障害者番組はドキュメンタリーという手法だったのですが、180度違うバラエティーでアプローチしてはどうだろうかと考えました。「バリバラ」=バリアフリー・バラエティーといいますが、ドキュメンタリーとバラエティーの違いは何だと思いませんか。

いまのテレビは、リアルであることが求められています。バラエティー番組の面白い所は、どれ位リアリティーがあるかなのです。今はもう、嘘っぽいモノは誰もが飽きている。よくドキュメンタリーの方が、リアリティーがあるのではないかと

われますが、実は、そうではありません。ドキュメンタリーの定義というのは、「取材対象に演出を加えることなく、ありのままに記録された映像を編集してまとめたもの」とされています。一般的にドキュメンタリーとは、制作者の意図や主観を含めずに事実の描写をしていく。一方、ドラマは想像の世界で創作されフィクションと認識されているものです。本質的には差がないのではないかという評論家もいます。ちなみにバラエティー番組というのは、一般的に言われているのは、歌やコント、コメディあるいは視聴者参加型の企画などいくつかの種類の娯楽を組み合わせた番組の事です。いまではバラエティー番組の多くがトーク番組と言われ、トーク番組と企画モノで作り上げていきますが、特に、最近のトーク番組についていえば、やはりリアリティーは、ドキュメンタリーとバラエティーでは差がないと考えられています。



先の脳性マヒブラザーズをドキュメンタリーのジャンルで取材したときは、彼らの日常の中で「こういうところでコントをしました」「ここでやっている」という状況をカメラに収めて、そこに至るまでの彼らの葛藤や苦悩を描き出していくことで、彼らの実像を伝えようと思いました。その中で、番組をショーアップして、彼らが競い合っていくのですがどれくらいリアリティーに差があるのかと言うと、そんなに差は無いと思っています。コントの中には非常に重要でいろんな情報が詰め込まれていて、それは、3分間のコントですけど、脳性麻痺の震える症状、そして、彼らが言いたい「僕たち、別に可哀そうではないですよ」という風刺的なメッセージを彼らはコントに情報として埋め込んでいるんですね。それが、リアリティーへとつながっていくのではないかと考えています。

「珍百景。某信用銀行の入口」

さて、この写真は埼玉県のとある信用金庫の写真(図1)です。変だなというのがわかりますよね?そう、スロープです。車椅子使えると思う?絶対、使えないよね。良かれと思って作ったのだと思います。僕らは



階段付きスロープ(図1)

こういうのを「なんちゃってバリアフリー」と言います。

次のこれは、ちょっと難しい。車が走らない橋に点字ブロックができていますが、これのどこがわかりますか？(図2) これも「なんちゃってバリアフリー」ですが、わかる人いるかなあ？よく見て、隣の人と3分間考えて。かなり上級モデルで、面白いのですが。これを説明すると、テレビは面白くなるんですよ。僕らはこういうのを発見すると、どうやってアプローチして、どう見せていくのかというのを考えてVTRを作り上げていきます。では、VTRをご覧ください。



渡れない橋 (図2)

■階段付きスロープ (図1)

ナレーション：埼玉県のとある金融機関、建物の右手に注目。キャッシュコーナー出入りに設置されたスロープ。車椅子利用者のためのものだろうか。一見、普通のスロープのようだ。しかし、何と階段が。これでは、車椅子の人は用できない。さらに不思議な張り紙。「スロープは正面入口横にあります」。確かに、正面には段のないスロープがある。ただし、こちらの入り口は、午後3時まで。埼玉県で見たバリバラ珍百景、それは世にも不思議な 階段付きスロープ。

■渡れない橋 (図2)

ナレーション：埼玉県朝霞市を東西に流れる黒目川。平成11年、総工費2億5千万円をかけたスタイリッシュな橋が建設された。通行できるのは自転車と歩行者のみ。駅への近道にもなっており地元の住民が多く利用している。市民の声：こんな殺風景な所にね、モダンな橋を作ってくれて、喜んでます。ナレーション：市民の評判も上々。さらに視覚に障害がある人が安全に歩行できるよう点字ブロックが敷かれている。橋の中央には風車を思わせる洒落たデザイン。点字ブロックはそれを囲む様に右周り、左周りどちらも歩行可能な設計になっている。いったいこの橋のどこが珍風景なのだろうか。全盲の山賀信行さんに実際に橋を歩いてもらった。しかし…山賀さん：字幕(橋はまっすぐじゃないの?) (微妙なカーブって方向がわからなくなるんだよね…) (あれ、おかしいなあ) ※点字ブロックに沿ってぐるぐると橋の上を周り始める山賀さん。ナレーション：とうとう2周目に突入。結局、来た道に戻ってしまった。スタジオ出演者1：全盲の山賀さんに歩いてもらっていましたが、山賀さんの感想では歩きづらい。半円だったら。出演者2：そもそもさあ、まわらなあかんか？出演者1：風車のために。出演者3：周って戻ったら、どこに行っているかわからないですよ。

「クリエイティブにプロデュースする」

橋(の中央)に真っ直ぐにしておけば何の問題もないのに、このような珍百景が日本中にあり情報が寄せられています。千

葉県のある駅前広場では、点字ブロックがデザインされているかのように点々と散りばめられていたり、進んでいくと突き当たりが壁だったりといったものもたくさんあります。これを僕らはどういう風にクリエイティブにプロデュースするか。

まず、説明をしない。最初からここはおかしくて、ここはこうでと一から説明をしてしまうと何も印象に残らないんですよ。最初に何をするかというと、相手に問いかけて、考えるプロセスを追体験してもらおう。これをするによって、押し付けがましくないし、説教臭くしないことで皆さんがちょっと考えてみようかなという番組になるんです。従来の福祉型で、NHKが作りがちな番組にしてしまうとああいふ風にはならない。この珍百景は、完全にバラエティーの手法を使っています。引っ張って、引っ張って、引っ張って最後に答えを出すというやり方です。さらに、ここがダメでここがおかしいですよ、というのを上から目線でやってしまうと人はひいてしまいます。

実は、バリバラ流のやり方というのがあって、これが非常に有効な方法なんです。関西人だと「あ〜っ」となるんですが、そう、「ツッコミ」です。橋の点字ブロックにしても(MCの)山本シュウさんが、「え〜っ」とツッコミを入れていくことで、変わってきます。「ツッコム」ことで人が「笑う」、笑った後で、人は「考える」。「ツッコんで、笑って、考える」という風にして、僕たちはバリバラを作っています。これが、クリエイティブにプロデュースする方法であり、説明せずにとにかく考えるプロセスを追体験してもらおうことにつながります。

「あなたならどうする？」

皆さんは、1階に居ると思って下さい。地下から上がってくるエレベーターで8階に行かなければならない。その時に、たまたま隣に車椅子の人がいる。エレベーターが到着した時に、自分だけだったら入れるけれど車椅子の人はちょっと無理と思うときはありませんか。その時、エレベーターに乗っている人に「この人ずっと待っているので乗せてあげて下さい」と言える人いますか。声を出せる人ちょっと手を上げて下さい。僕も出せないかなと思います。

何を問いかけたかと言うと、その時に、車椅子の人はどう思っていたかということなのです。車椅子の人に聞いてから、「どうしましょうか」「声を掛けましょうか」と言える人はいますか。なかなかいないですよ。本当は、この車椅子の彼もしくは彼女が、どう思っているかって事が重要なのです。なぜならば「すみません。この人ずっと待っているんで(エレベーターに乗っている人に)降りて下さい。」と声をかけて、車椅子の人が乗ったとき、その人がどれくらいの気持ちになるのかってことなんです。「あ〜、そこまでして…人に迷惑をかけてまで乗りたくないな〜」って思っているのかもしれない。いや、「本当に乗りたいと思っていたけど自分から声をかけられなかったので助かった」ということもあります。車椅子当事者の立場に立って少し考えたらどうかっていうところを、番組ではやってきています。

「障害者差別解消法」

「障害者差別解消法」が、平成28年4月1日から施行されます。「障害者差別解消法」とは、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」なのですが、例えば、障害を理由として、レストランなどが入店を拒否してはいけません。「車椅子の人は、うちではお断りしているんですよ」などと言っはいけないということです。解消法であり禁止法ではないので、民間は努力なのですが、国のサービスなどでは義務とされます。

そして、今後はそれに対する合理的配慮という言葉に耳にするようになるかもしれません。合理的配慮とは、障害のある人に対して配慮をしましょうということです。もし、店の入り口が段差になっていたら、そこにスロープを付けましょう。スロープを付けるのが難しいのであれば、人力でその車椅子の人を店に入れてあげましょうといったことになります。例えば、情報サービスもそうですが、目の見えない人が、文字が読めなくて情報にアクセスできないとき、その情報を伝えるための合理的配慮が必要になります。また、耳の聞こえない人に対しては手話が必要といったような配慮が国や行政に義務づけられ、民間では努力になってきます。恐らく2020年のオリンピック、パラリンピックに向けて、このあたりが進んでいくことと思われます。そこで、差別か配慮かってところですが、わかりにくい微妙なラインがあって、法律では線引きできないところなので心のバリアフリーが必要になってくるのではないかなと思います。では、差別なのか、それとも妥当な配慮なのか。問題VTRを見ながら、皆さんと考えていきたいと思います。

「差別 or 配慮？」

ナレーション：(全盲の) 福点さんがやって来たのは、とあるレストラン。どうやら、外食のときにモヤモヤするらしい。案内されたのは出入り口付近の席。実は、これが福点さんのモヤモヤの原因。福点：(席に着く) なんかねえ、視覚障害者は、よう出入り口付近にパーッと座らせてくれるんですわ。これがねえ、もうモヤモヤとすんね。(食事を始める。) ナレーション：でも、味はどの席で食べても同じはず。と、その時、(レジの音が聞こえてくる) 字幕 [レジの音が気になる] ※店長「ありがとうございます〜す」「ごちそうさまでしたあ」女性客のハンドバッグが帰り際に福点さんにぶつかる。客：あっ、すみません。字幕 [人の出入りが多い] ナレーション：確かに、毎度この状態で食事をするのはつらいかも。字幕 [落ち着かない] 福点：ドアはバツタン、バツタンするし、何食ってても落ち着かんし。レジはチンチン言うしさ。ナレーション：福点さんとしては、空いている席があれば奥の席に座りたいという。福点：この店、賑やかやなあ、お料理の匂いと音楽、こんなもんが僕らにとって大事やね。やっぱり自分の好きな奥の席に行きたいよな。ナレーション：一方、店側にも出入り口付近の席に案内するには理由がある。店長：足元が危なかったりするんで、長いこと歩いて何かにつぶかったりしないようにという配慮で入り口付近へ案内したんですけど。ナレーション：では、皆さんに質問。視覚障害者がレストランで出入り口付近の

席ばかりに案内されるのって、不公平それとも妥当な配慮？

日本人の難しい所は「気遣い」それこそ「おもてなしの気遣い」はどちらかという奥ゆかしく伝えるスタイルが多いのですが、実際は、当事者からするとやはり聞いてほしいなっていう意見は多いみたいですね。とはいえ、すべて聞いているかといえば、聞ける状況ではないというところもあります。「障害者差別解消法」から考えると、まずは当事者の意見を聞くことが大切になると思います。ただ、この辺の微妙な範囲については、簡単に答えを出さなくてもよいのではないかと思います。常に、モヤモヤとはしますけど、考え続ける事がとても大切なのですから。うちの番組では、モヤモヤした感じで皆さんの記憶に残ってもらうことを狙った「起承転々」という言い方をしています。起承転結の「結」で結びつけずに、転がしてさらにもっと議論を深めていく。僕たちが作っていく「共生社会」というものに理想はあると思いますが、正解というものは決してなく、誰かが模範解答として正解を提示できるなどというのはありえないことです。正解を出すことが大切なのではなくて、皆さんがその一つ一つを、ひたすらに考え続けることが最も大切なことではないかと思います。

「NO LIMITS」。限界なしでやってみる。

バリバラのモットーは「NO LIMITS」。テレビ業界では、「ここまで、やってはいけないんじゃないのかな」とか、「これ以上踏み込んだら、危ないのではないかな」といった領域に縛られがちなのですが、そこは一旦、リミッターを外す。そして、「限界なしでやってみる」。ただ、何でもすべてOKかというところではありません。たとえば、障害者の性、いわゆるセックスについて番組で取り上げることもあります。ただ、それは、「これまでタブーだったからやる」というわけではなく、それがなぜタブー視されていたのかを、一回、ちゃんと自分の目で見て頭で考えるためにリミッターを外すということです。これが、結構重要なことで、共に共生社会を作っていくことにもつながるのです。何かを考えるときに、皆さんには是非、自分の目で、耳で、そして、頭で感じながら、一回、「果たしてこれまで常識と言われてきたことは正しいのか」と問い直すところから始めて、考え続けて頂ければと思います。

最後までお付き合い下さいましてありがとうございました。

NHK 大阪放送局制作部 チーフプロデューサー

日比野 和雅 (ひびの・かずまさ) 氏

NHK 大阪放送局「バリバラ〜障害者情報バラエティー〜」(NHKE テレビ日曜夜7時〜) は、出演者のほとんどが障害者で障害者が「本当に必要な情報」を楽しく届ける番組。これまでタブー視されてきた障害者の性やお笑いにも果敢に切り込み、新しい取り組みとして高く評価されている。1964年生まれ、東京大学文学部卒。

TUXEMA

Tuxedo-Hakama

観光ビジネスコースの挑戦 障害者の婚礼市場にイノベーションを起こす

車椅子の新郎のための婚礼企画「タキシーマ・ウエディング」

■NHK 大阪主催障害者のためのバリアフリーファッションショーに出場。



2015年9月12日にグランフロント大阪で開催された「バリコレ」では、お色直し用に製作した「リバシー

マ」の早着替えを3000人の観客の前で披露。この模様と作品の機能性については、NHKEテレ「バリバラ」(毎週日曜夜7時～)で2回にわたり放送され、プロのデザイナーからも高い評価をいただきました。また、九国大と香蘭のイケメン・メンバーによる「チーム・タキシーマ」は、ほかの作品にもモデルとして登場。ポーズだけでなく、はるな愛さんのエスコートや車椅子の女性モデルとのやりとりなどをそつなくこなし、圧倒的な存在感を示しました。

■車椅子の新郎向け婚礼衣装「タキシーマ」(実用新案取得済)のこだわり。



車椅子の新郎のための婚礼衣装「タキシーマ」には、様々な工夫が施されています。たとえば、上着のアームホールと袖口は通常よりも広く取り、着脱を楽にしました。また、長時間着用すると腹部が圧迫されるという課題を解決するためにウエストはゴム仕様。着替えやトイレでの着脱がしやすいよう袴の両脇はスナップで全開できます。さらに、タキシーマの中に着るドレスシャツはダミーシャツのため、この下にはシャツブラウス式のお色直し衣装「リバシーマ」を予め着ておくことができます。「リバシーマ」は膝下部分をジッパーで着脱できる短パンスタイルにもなるため、車椅子上で着用も簡単



です。「タキシーマ」の様々な工夫は、九州国際大学初の実用新案取得となりました。

■婚礼用昇降式電動車椅子「タキシーマ・ペガサス」に込めた思い。

外科医の手術用として開発された昇降式電動車椅子「アテナ・ペガサス」を婚礼用に改良。たとえば、新郎新婦が向き合ったときに、邪魔になる足置き台は上に跳ね上げられるようにし、車椅子の両脇にも足を載せるための小さな台を設置します。これにより新郎



新婦の距離はぐっと縮みます。座面が80cmまであがる婚礼用「タキシーマ・ペガサス」なら身長177cmの健常者と同じ世界を体験できます。「車椅子が上がると気分も上がる」と、2016年度から福島ゼミの一員となる島村さん(1年)も春休み中から精力的に活動を続けています。初めての出張は、車椅子製作会社の(株)メックデザインさんでした。

■ご支援ください!クラウドファンディングで資金調達。5月9日11:00pmまで!!

婚礼用昇降式電動車椅子「タキシーマ・ペガサス」の製作資金はインターネット上で多くの方からご支援をいただくクラウドファンディング「READYFOR」を通して調達しま



す。<https://readyfor.jp/projects/tuxema-pegasus>

1. 「READYFOR」にアクセスし「プロジェクトを探す」をクリック。画面左上に「タキシーマ」と入力し検索。
2. 検索結果の「車いす新郎の為にタキシーマ・ウエディングを実現させたい!」をクリック。
3. 画面右上の「このプロジェクトを支援する」をクリック。
4. facebook かメールアドレスで新規登録をお願いします。
5. 画面表示に従って、「支援額とリターンを選択」「お支払い情報の入力」「入力情報の確認画面」「支援の完了とお願い」へとお進みください。
6. お礼の品は、小倉織ブランド「縞縞 SHIA-SHIMA」の生地を使ったメンバー手作りのランチョンマットとコースターのセットや袱紗など。「車椅子に支援者の名前を刻む」というものもあります。お支払いはクレジットか銀行振込(3万円以上)で。支援額3000円の場合は福島ゼミ生にお声掛けください。ご支援よろしくお願ひします。

徹底解剖!! 開発から学生ベンチャーまで 車椅子の新郎向けの婚礼企画 「タキシーマ・ウエディング」



観光ビジネスコースの福島ゼミでは、香蘭ファッションデザイン専門学校（福岡市）と共同で、車椅子の新郎向け婚礼衣装「タキシーマ」を開発しました。5名の九国大生が企画を立案し、2名の香蘭の学生がデザインと製作を担当。いずれもイケメン揃いの男子学生で、うち九国大の2名は現役モデルという異色のメンバーです。



香蘭で打ち合わせする福島ゼミ生

■「ホスピタリティ」を学ぶゼミ生が考える障がい者理解と共生社会。

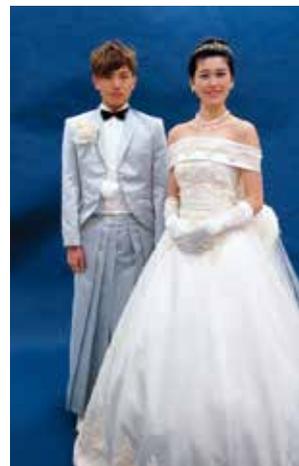
そもそもこの企画は、「障がい者理解を深め共生社会を実現するためにはどうすればよいのか」というゼミの課題に対し、ゼミ生たちが考えたのが、「健常者と障がい者が一緒に何かをすること。」でした。たとえば、「銃弾の音が聞こえない聴覚障がい者とサバイバルゲームをする」、「目が見えない視覚障がい者と真っ暗闇の洞窟探検をする」、「下肢障がいので歩けない車椅子利用者とパラグライダーをする」といったように、障がいを個性あるいは特性と捉えて、その特性を生かせるようなアクティビティをすれば障がい者理解が深まると考えました。しかし、そのようなアクティビティは、その時だけの限定的な体験で、「障がいを理解する」までは至りません。そこで、障がいを理解するためには「障がい者と、ある程度の期間一緒に過ごし、何かものを一緒につくることがいちばん」と考えたのです。そうして、生まれたのが、「車椅子の花嫁のためにウエディングドレスを製作する」ことでした。



■男子学生が、「車椅子の男のための、ウエディング」にこだわる理由。

ところが、張り切って車椅子のウエディングドレスのプランニングを開始したものの、車椅子の花嫁をターゲットとした「車椅子一体化ウエディングドレス」は開発してあり、すでに東京や大阪のホテルと業務提携して商品化までされてい

ました。しかし、いろいろと市場調査をしてみると新婦向けのウエディングドレスはあっても、下肢に障がいがある新郎向けに、特別に配慮された婚礼衣装はありませんでした。そこで、発想の転換で生まれたのが「車椅子の新郎向け婚礼衣装」でした。車椅子の男性が着てもカッコいい、「ユニバーサルデザインの婚礼衣装をつくりたい」。この思いがプロジェクト誕生のきっかけです。



左・三戸さん（日南高校）

■着心地がよくて、健常者が着てもカッコいい、ユニバーサルデザイン。

結婚式を挙げたばかりの車椅子の男性に話を聞きました。「僕は、和装だったけど、車椅子に乗っているので羽織の裾はだぶついたし、袴でウエスト回りは締め付けられる。ホントに大変だった。着心地がよくて、なおかつカッコイイ婚礼衣装があればいいよね。それに、お色直し用の衣装が選べればもっといい」。この一言に、ゼミ生は潜在的需要があると確信します。そこで誕生したのが、上が洋装の「タキシード」、下が和装の「袴」、名付けて「タキシーマ」です。しかし、コンセプトが出来たものの文系学生だけでは、衣装製作はできません。プロに依頼する資金もありません。「プロではなく、専門学校の学生と一緒に作れば製作費も抑えられるし、障がい者理解にもつながる」と白羽の矢を立てたのが、香蘭ファッションデザイン専門学校でした。福島ゼミでは、外部に協力を仰ぐときは協力先の選定からアポイント、交渉までのすべてをゼミ生自身が行います。プロを目指す、専門学校生とのコラボレーションを実現させたのもゼミ生の粘り強い交渉によるものでした。



■専門学校の学生に習い、初めての手作りに挑戦。

ゼミメンバーは、服作りはもちろん生地を裁つのもミシンを使うのも初めての経験。平面の布がどのようにして立体化的な服になっていくのかもわかりません。

ウエディングドレスにしても、「3日もあればできる」と思っていたと言い、専門学校のメンバーに失笑されました。デザイン製作担当の学生から上がったスタイル画は、いままでに見たこともないカッコ良いもので、ゼミ生一同、一目で気に入る納得のデザインでした。(婚礼衣装「タキシーマ」の特徴については前ページを参照)。



穴井さん(小倉東高校)

ただし、服作りを手伝うといっても、ゼミ生は全員素人。プロを目指す職人とは違います。九国大生が手作りのしたのは、婚礼衣装ではなく、婚礼用昇降式電動車椅子「タキシーマ・ペガサス」に掛けるカバーでした。

■花嫁に見下ろされるのは嫌ばい。「男のプライド」っていうか、さ。



婚礼衣装同様、ゼミ生が特にこだわったのが、「新郎の視線を新婦の視線より高くする」こと。「男にしてみれば、女に見下ろされるのは嫌ばい」と熊本出身の石本さん(2年)は言い、「そうやけえ、新郎の車椅子も電動の昇降式でないといけんっちゃ」と地元北九州出身の穴井さん(2年)もこだわりを見せます。一言でいえば「男のプライド」。実

際に、車椅子の新郎のための婚礼企画「タキシーマ・ウエディング」の広報写真の撮影で、車椅子に乗り花嫁を見上げたイケメンモデルの三戸さん(2年)は、「お〜、ヤバッ、ヤバいッすよ。これってやっぱり男のプライドが…」と大騒ぎ。見下ろされる感じは否めないといいます。

■義足のアスリート。走り幅飛び日本記録保持者、藤嶋大輔氏との出会い。



たまたま、このプロジェクトが進行している際にNHK大阪放送局が主催する、はるな愛プロデュース「障がい者のためのバリアフリーファッションショー〜バリコレ〜」が、ファッション

ショーに出品する衣装を募集していることを知りました。早速、九国大生と香蘭生が共同で「チーム・タキシーマ」として応募。スタイル画による審査の結果、見事、九州地区代表として出場することが決まりました。このとき、「タキシーマ」のモデルを務めてくれたのが、走り幅跳びの日本記録保持者、義足のアスリート藤嶋大輔氏でした。それまで障がい者と話をすることも、一緒に何かをするこ

ともなかったゼミ生でしたが、幼い頃に事故で片足を失ったという藤嶋さんの話やNHK大阪の「バリコレ」で堂々とショーに出演する障がい者たちとの出会いにより「障がい者理解がいちばん深まったのは自分たち」と渡辺さん(2年)は語ります。

■パールアップと誓いのKISSは、花嫁と視線をあわせて。



藤嶋さん(NHKバリコレ)

婚礼衣装「タキシーマ」と合わせて「バリコレ」に登場させたのが婚礼用昇降式電動車椅子「アテナ・ペガサス」です。外科医の手術用に開発されたコンパクトで小回りが利く昇降式電動車椅子に、特製のカバーをかけ、華やかなショーと婚礼に相応しい装いにしました。花嫁役は、はるな愛さん。2人並んでランウェイを歩いていただきました。

操作ひとつで座面が上がり花婿の身長が177cmになるという画期的な車椅子はモデルの藤嶋さんも「気持ちがいいほど、眺めが良い」と興奮気味でした。

■「タキシーマ・ウエディング」で本気で取り組む学生ベンチャー、始動。

2016年度、福島ゼミでは婚礼衣装「タキシーマ」と婚礼用昇降式電動車椅子「タキシーマ・ペガサス」を用いて障がい者婚礼をサポートする「タキシーマ・ウエディング」の事業化を計画しています。この学生ベンチャーのリーダーが、仲座



仲座さん(興南高校)

クリストファ光樹さん(2年)。沖縄興南高校野球部出身だけあって粘り強さと、真摯に仕事に向き合う姿勢は、クライアントやマスコミ各社からも定評があります。ビジネスの柱は3つ。一つ目は、婚礼用昇降式電動車椅子「タキシーマ・ペガサス」のレンタル業務、二つ目は、障がいの種類や程度にあわせて「タキシーマ」を製作するオーダーメイド業務、そして、三つ目が「タキシーマ」の購入者から使用後の衣装を借り受け、安価で市場に提供し共有させていくシェアリングビジネスです。

厚労省によると18歳以上で男性の下肢障がい者は全国で31万7000人いますが、中には障がいを理由に結婚式を諦めたり、ためらったりしている人がいるかもしれません。「タキシーマ・ウエディング」は、そのような方々のために、新しい婚礼スタイルを提案していきます。「婚礼市場にイノベーションを起こしたい」。元高校球児の仲座さんは、真向、直球勝負。熱く語ります。

観光ビジネスコース 1年の軌跡

第6回観光シンポジウム「共生社会をつなぐ」 3年生研究発表 2015.10.29

第6回観光シンポジウムでは、観光ビジネスコース福島ゼミの3年生が研究発表を行いました。卒業論文の基礎研究となるもので、福島ゼミでは全員が論文執筆に取り組みます。タイトルは以下の通り。「障害者専用乗換アプリ「乗り換えバリQ」開発のための基礎研究」(三浦祐希・3年)、「視覚障害者の土産購入に関する単独行動について～楽しみを買う～」(石原茜・3年)、「障害者向けアクティビティの課題と可能性」(舌崎奏真・3年)、「アスリートの縁起担ぎに関する研究～宿泊施設への提言～」(柳生遥香・3年)



石原さん (ルーテル)

「第15回大学発ベンチャー・ビジネスプラン コンテスト」二次審査出場 2015.11.25



松本さん (柳川高校)

平成27年度は九州圏内の大学・高専等の学生から57件のビジネスプランの応募があり、福島ゼミからは2年の松本健一郎さんと穴井祐汰さんが挑戦しました。タイトルは「車いすの新郎向け婚礼衣装」を用いたハイブリッドビジネスモデル。第一次書類審査を経て、第二次のプレゼンテーション審査まで駒を進めたものの惜敗。挑戦した松本さんは「これは、通過点。僕らにはまだ先がある」とコメント。

「第8回タップアワード(論文コンテスト)」 最高位の学生賞受賞 2015.11.30

ホテルコンサルタントの(株)タップが主催する論文コンテストで、福島ゼミ3年の柳生遥香さんが、最高位の学生賞を受賞しました。この研究は、スポーツ選手が良い成績を出すために



柳生さん (下関商業)

で行う縁起担ぎを社会心理学の見地から独自に分類し、縁起担ぎが生成される過程を明らかにしたものです。その上で、それらの縁起担ぎを遂行するために宿泊施設ができることについて提言をまとめました。柳生さん自身も元陸上選手で、陸上部のマナー

ジャーを務めるなどスポーツには力を注いでいますが、研究の着地点は、視覚障害のマラソンランナーと伴走者の縁起担ぎの関係性について明らかにすることです。

「社会人基礎力育成グランプリ 2015 九州沖 縄地区予選会」 奨励賞受賞 2015.12.6

社会人基礎力とは「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力から構成される「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」のことです。2年ゼミ生は、春学期から取り組んできた、車椅子の新郎向け婚礼企画「タキシーマ・プロジェクト」を通じて学んだことをテーマに発表しました。福島ゼミでは、これらの能力獲得のほかにも名刺交換の仕方やメールの書き方、電話の掛け方などを学びます。



澤田さん (美山高校)

下肢に障害のある新郎のための婚礼衣装「タ キシーマ」で九国大発の実用新案を取得

九国大の福島ゼミと香蘭の学生が共同製作した、下肢障がいのある新郎のための婚礼衣装「タキシーマ」の工夫点を整理し実用新案を登録しました。考案の名称は「車いす常用の新郎用婚礼衣装」、登録第3203185号です。担当は2年の穴井祐汰さん。

全国放送のNHK 教育テレビ、毎日新聞、西日本 新聞、観光経済新聞などマスコミでも多数紹介

NHKEテレ「バリバラ」にて「バリコレ後編」(2015.10.11)「バリコレ機能編」(2015.11.8)、西日本新聞(2015.9.8および2015.11.6)、毎日新聞(2016.3)、観光経済新聞(2015.10.4)、公益財団法人日本ケアフィット共育機構発行フリーペーパー「継」(2015年冬号)ほか。

「サービス介助士2級」資格取得 2015年6月、11月の年2回筆記・実技・検定

福島ゼミでは、全員がサービス介助士の資格を取得します。サービス介助士とは、障がいに関する専門知識と実践的技術を修得し、障がい者サポートを適切に行うことができる人のことです。九州国際大学では、年二回、学内で筆記と実技試験が受験できます。この資格は観光系就職にも役立ちます。



日韓交流の未来を探る KIU ホールで「学生シンポジウム」開催

日韓の市民・学生が交わり、共に未来について考える催しが、九州国際大学 KIU ホールで開催されました。2月14日(日)に行われた「国際交流ウォーキング大会 & 日韓シンポジウム」には市内在住の在日コリアンや留学生、一般市民・学生など約300人が参加し、日韓関係への思いを語り合いました。

冬に逆戻りしたような寒さと強風のなか、東田大通公園を出発したウォーキング参加者たちはそれぞれ7kmと10kmのコースを歩き、正午近くに九国大に到着。午後からのシンポジウムに参加しました(裏表紙の12頁に写真掲載)。

「ネットでは得られない体験を語ることで互いに興味を持ち、相互理解が広がる」と話す九工大大学院1年の坂東広太郎さんは、日韓の人々が頻りに往來することの大切さを強調。民団青年会の朴成華さんからは「相互理解を深めるには、先ず自国や自分について自己認識することが必要」との意見がでました。

シンポジウム終了後のアンケートには、「各学生がしっかりと自分の経験を語っていることに感銘を覚えると共に、こうした若者が今後の両国関係のベースにいることに安心した」な



午後1時、堀田泰司学長の開会挨拶から始まった日韓シンポジウムでは、朴鎮雄・駐福岡韓国総領事が記念講演を行い、九州と韓国の歴史的な繋がりや文化・経済面における日韓協力の重要性を説明。「互いの文化を理解することは大切であるが、互いに譲り合う意識も必要である」と語り、昨今のギクシャクした日韓関係解決の糸口が草の根交流の盛んな九州から芽生えることへの期待を示しました。

続いて行われたパネル・ディスカッションでは、市内在住の日・韓大学生ら若者5人が留学体験や日韓関係への思いを発表しました。九国大4年の任昌敏さんは、4年間の日本での留学生活を通じて、「周りの情報に流されず、自分なりに日韓関係を考えることが大切」と話し、北九州市立大4年の東優里佳さんは、自らの韓国留学経験を振り返りながら、「自分で見たこと感じたことを基本にして、理解を深めることが市民交流や日韓関係を発展させる」と語りました。

また、ソウルの漢陽大学校に留学した九国大4年の森加奈絵さんは、「韓国に関心を持つ私たち世代が自分の考えや意見を発信する機会を作らな

ど、好意的な意見が数多く寄せられました。

日韓両言語による司会進行から運営に至るまで、ハングルコース(森脇ゼミ)の学生たちがチームワークで臨んだ市民学生参加型の国際交流イベントは盛況のうちに幕を降ろしました。



パネル・ディスカッションのパネラー(敬称略): 右から、森加奈絵(九州国際大学)、任昌敏(九州国際大学)、朴成華(在日本大韓民国青年会)、坂東広太郎(九州工業大学大学院)、東優里佳(北九州市立大学)

第3回 KIU 杯高校生英語スピーチコンテスト

平成 27 年 11 月 14 日（土）に第 3 回 KIU 杯高校生英語スピーチコンテストが開催されました。

コンテストでは本選大会出場者 16 名のうち下記の 6 名の高校生が入賞しました。

受賞者一覧（敬称略）

- 1 位 高松 美聡
香住丘高等学校 1 年 *No More Lives of Pain*
- 2 位 下村 美德
筑紫丘高等学校 2 年 *"Hinan" or "Nigero"*
- 3 位 吉田 光希
西南女学院高等学校 1 年
3Rs : Responsibility, Rules and Real Communication
- 福岡県教育委員会賞 森 美波
西南女学院高等学校 1 年 *Be a Bridge between Japan and the World*
- 北九州市長賞 有田 結生 マリー
香住丘高等学校 1 年 *We Are All the Same*
- 北九州市教育委員会賞 大貝 洋一郎
長崎南山高等学校 2 年 *What's in a Smile?*



左から高松さん（1 位）、下村さん（2 位）、吉田さん（3 位）

第4回 KIU ハングル・スピーチコンテスト



ハングル・スピーチコンテスト参加者とともに

平成 27 年 11 月 14 日（土）に第 4 回 KIU ハングル・スピーチコンテストが開催されました。今年で 4 回目を数える本コンテストには、2 名の高校生を含む計 11 名が出場しました。

受賞者一覧（敬称略）

- 最優秀賞：古谷 知世（国際関係学部 1 年）
発表テーマ：한일대학생교류회에 참가해서
（日韓大学生交流会に参加して）

- 優 秀 賞：明石 真子（国際関係学部 3 年）
発表テーマ：한국에서 지낸 1 년간
（韓国で過ごした 1 年間）
- 優 秀 賞：藤高 早希（九州国際大学付属高等学校 2 年）
発表テーマ：내 꿈（私の夢）
- 優 秀 賞：三枝 優紀（法学部 4 年）
発表テーマ：한국에서 유학하면서 만난 북한 학생들
（韓国留学中に会った北朝鮮の学生たち）

ゼミ対抗プレゼンテーション大会

◎：プレゼンテーション（発表）部門入賞、☆：コンテンツ（内容）部門入賞

1年次（平成27年12月7日実施、発表順）

発表のタイトル	ゼミ名
◎今日の世界一受けたい授業は一世界の人口と地球環境の問題	山本ゼミ
☆アニメ・漫画を通して世界と繋がる	樋口ゼミ
なぜゴキブリは嫌われているのか？	日高ゼミ
環境先進国ドイツの環境政策から私たちが学ぶべきことは何か？	大形ゼミ
◎接客業におけるお辞儀の有用性に関する研究	福島ゼミ
☆「物語」の構造—「物語」としての「神話」そして「都市伝説」（人はなぜ「都市伝説」を信じてしまうのか）	松井ゼミ

2年次（平成27年12月9日実施、発表順）

発表のタイトル	ゼミ名
池上彰—人気の秘密について	加藤ゼミ
「大聖堂」の読解から学んだこと	大園ゼミ
2020年に向けたインバウンド政策 —2020年の東京オリンピックに向けて	崔ゼミ
☆ Learning Materials Project	ケンブゼミ
「車いすの新郎向け婚礼衣装」を用いたハイブリッドビジネスモデル	福島ゼミ
◎カンボジアが分かる1分間のヤバ良い話	藤井ゼミ
KIU English Support を通して学んだこと—子供たちをよりよく伸ばす教育とは	太田ゼミ
民族衣装から探る“日・中・韓”美意識の違い	森脇ゼミ

3年次（平成27年12月16日実施、発表順）

発表のタイトル	ゼミ名
◎ TABICCESS tabi-access	福島ゼミ
☆ Book to Read プロジェクト	藤井ゼミ
英語は本当に必要か？—業界別現状分析	日高ゼミ
☆日本における教会・モスクの役割—外国人居住者と日本社会との懸け橋	樋口ゼミ
コンビニのマーケティング戦略	青木ゼミ
オリンピックで魅せる日本—3200万人誘致に向けて	森脇ゼミ
英語は必要？—3カ国の学生への英語意識調査から学んだこと	細木ゼミ
来たる日本の未来に備える観光政策	崔ゼミ



平成 27 年度国際関係学部卒業論文優秀者

1月30日(土)に実施された卒業論文口頭試問を受けた学生が執筆した卒業論文のなかから、審査の結果、以下の学生の論文が受賞しました。

【ベストペーパー賞】

安達 瞳 「ヒッポファミリークラブの活動から見る多言語教育の可能性」

【国際関係学部長賞】

木佐貫 杏樹 「カンボジア教育の諸相 —情操教育の必要性に関する一考—」

【優秀賞】(4本)

木村 美喜子 「日本在住の韓国・朝鮮人に関する考察 —植民地時代から近年までの差別問題を中心に—」

福崎 翼 「近現代の日本の女性解放思潮の諸形式 —与謝野晶子・平塚らいてう・上野千鶴子—」

中尾 優希 「日本のNGOの始まり —内戦時代、ポル・ポト政権時代の難民支援を通じて—」

山根 恵里 「児童労働問題の解決に向けて —基礎教育の普及が果たす役割—」

国際交流ウォーキング大会

2月14日(日)に国際交流ウォーキング大会が実施されました(関連記事9頁)。



平成 27 年度卒業論文プレゼンテーション

卒業論文口頭試問の当日である1月30日(土)に3名の学生が卒業論文のプレゼンテーションに参加し、仕上げた卒業論文の骨子をパワーポイントにまとめ、発表を行いました。



左から、木村美喜子さん、蒲池諒一さん、安達瞳さん

あ と が き

教養とは何か、論じている書物は多数あるが、昨年秋に出版された出口治明氏(ライフネット生命保険会長兼CEO)の『人生を面白くする本物の教養』(幻冬舎新書)は、教養を身につける方法を懇切丁寧に明らかにした好著である。

同書で出口氏はまず「日本のリーダー層は、世界標準からすると、教養という点ではかなりレベルが低いと言わざるを得ない」と、日本人の教養の少なさや勉強不足を厳しく指摘する。大学生についても、ある調査によれば、日本の大学生が在学中に平均約100冊の本を読んでいるのに対して、アメリカの大学生は平均約400冊という結果が出ており、勉強量に圧倒的な差があるという。英語についても、「あなたが世界に目を向けたらと思うなら、英語は不可欠です」と述べた後、グローバル人材の最低ラインは「TOEFL100点」(120点が満点なので83%)と手厳しい。

出口氏が提案している教養を身につける具体的な手法については、同書を読んで欲しいが、出口氏が主張するように教養とは、読書、人との出会いや旅などを通じて、学ぶものだろう。そして、その学びが「知識」を学ぶだけではなく、知識を手段として「自分の意見をもつ」ということに教養の本質があるだろう。

「国際関係学部」のなかにもゼミ活動を通じた「出会い」、海外語学学習や社会実習などの「旅」は数多く用意されている。読書とともに、これらの活動などに積極的に参画して「教養」を磨いて欲しい。(加藤)

発行人：九州国際大学国際関係学部

〒805-8512 北九州市八幡東区平野1丁目6番1号

電話 093-671-9010 FAX 093-662-8340

http://www.kiu.ac.jp/

編集人：国際関係学部教授・加藤和英